

| ナンバリング | 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配当年学期 | 単位数 |
|---------------------------|--|---------------|---------------------------|--------|-----|
| 122AH02 | 哲学 B | 哲学としての精神分析入門 | 関 修 | 1 年次後期 | 2 |
| 科目区分 | 基礎 | キーワード | 精神分析、フロイト、ユング、ラカン、カウンセリング | | |
| ディプロマポリシーとの対応 | 1. 時代や社会の要請に対応できる能力 | | | | |
| カリキュラムポリシーとの対応 | 1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける | | | | |
| 事前に受講するとよい科目 | 哲学 A | | | | |
| オフィスアワー | 授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。 | | | | |
| 教員への連絡方法 | 教員の短大メールアドレス | | | | |
| 講義の目的 | 私＝自我＝自己意識というものの自明性は「無意識」という心のもう半分の部分の発見で大きく揺らいだ。精神分析、心理学との関係性の中で「精神分析」がどのように現代を生きる上で重要な学問であるかを哲学的に考察する。また、カウンセリングが言語を介することの重要性を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | 自分自身の心を見つめるヒントを得、適切な行動をとれるようにする。また、異性やマイノリティなど他者への理解を持ち、社会的に自立した人間性を確立する一歩を踏み出せるようにする。 | | | | |
| 講義内容 | カウンセリングの基礎となった「精神分析」について、その誕生から現在までを概観する。その際、精神医学、心理学との関係性を考慮する。また、フェミニズムやLGBTQといった現代の問題との関連性を積極的に取り上げる。 | | | | |
| 講義スケジュール | | タイトル | 内容 | | |
| | 第1講 | ガイダンス | 精神分析とは何か？この講義の勉強の仕方について | | |
| | 第2講 | はじめに | 無意識の発見、精神分析前史 | | |
| | 第3講 | 精神分析の位置づけ I | 精神医学との関係 | | |
| | 第4講 | 精神分析の位置づけ II | 心理学との関係 | | |
| | 第5講 | 精神分析の位置づけ III | フロイトとユング | | |
| | 第6講 | 精神分析の位置づけ IV | フロイトからラカンへ | | |
| | 第7講 | フロイト I | 精神分析の誕生 催眠から自由連想法へ | | |
| | 第8講 | フロイト II | 夢の解釈 | | |
| | 第9講 | フロイト III | 心を動かす力としての性、リビドー、欲望 | | |
| | 第10講 | ユング I | 集合無意識 類型論 | | |
| | 第11講 | ユング II | 箱庭療法 | | |
| | 第12講 | ラカン I | 鏡像段階論 | | |
| | 第13講 | ラカン II | 三界理論 | | |
| | 第14講 | ラカン III | 短期分析 | | |
| 第15講 | まとめ | 精神分析の未来 | | | |
| 指導方法 | 講義中心。毎回、グーグルクラスルームを用いて、質問・感想・意見を「課題」として出し、次回それらに応答する。 | | | | |
| 事前学習 | 授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。 | | | | |
| 事後学習 | 授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。 | | | | |
| 成績評価方法 | 平常点（授業内発言、課題の提出回数・内容）70%、本試験（筆記試験、すべて持ち込み可）30% | | | | |
| 課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法 | グーグルクラスルームを用いる | | | | |
| テキスト | 特に定めない | | | | |
| 参考文献 | 授業内に適宜紹介する。 | | | | |
| 実務家教員による授業 | | 教員 経歴 | | | |
| 特記事項 | 講義中の私語は禁止。減点の対象となります。 | | | | |